



『壺の中に天が有る』生活のススメ

校長 海 頭 巖

昔、中国がまだ『漢』と言われていたころのお話です。

『ある役人が、何気なく役所の窓から街の往来を眺めていると、城の壁の下に座って薬を売っている一人の老人がいました。ちょっと気になり、自分の仕事が終わってから、老人を訪ねてみました。老人は、自分の横に小さな壺を置いていました。役人に気づいた老人は、すかさず店をたたんで、壺の中にパッと入って見えなくなっていました。役人は、「面白いものを見つけた。ひょっとしてあの老人は仙人ではないか。」と思い、次の日の夕方、またそこへ出かけて行きました。「昨日、壺の中に入って消えたところを見てしまった。ぜひ今日は自分を一緒に壺の中へ連れていって欲しくないか。」と、頼みました。老人は「そうか。」と言って、役人と一緒にその壺の中へ入って行ったのです。その壺の中は、美しい山や川など自然があふれ、また立派な建物も建ち並び、役人は十分楽しんで帰りました。』という話です。

なぜこんな話を載せたかというと、『壺の中に天有り』だと思うからです。『壺の中に天有り』とは、『現実生活の中の別天地』とでも理解していただいてかまいません。私の尊敬する哲学者安岡正篤氏は、「たとえ一日5分でもいいから、壺の中に天有り（壺中有天）の生活をせよ。」と。人はどんな境遇の中にあっても、自分だけの内面世界をもつことの大切さを説いていらっしゃいます。『壺中天（現実生活の中の別天地）』をもつことは人生にとっても大切なことだと思います。たとえ苦しいこと・辛いことがあっても、心に余裕をもって生きている時間、夢中に生きている時間がまさに『壺中に天有り』なのです。

さて、私には『らんちゅう（金魚の一種）飼育』という『壺中天』があります。『らんちゅう』の泳ぐ姿の美しさに魅せられ、『らんちゅう美』を追求し、もうかれこれ15年余りになります。全く興味のない人には、その良さを理解していただくことはできません。でも、『らんちゅう飼育』が私の現実生活の別天地なのです。（常盤ふれあいセンターにも私の愛魚がいます。）

皆さんは何か『壺中天』をおもちですか。「何を言っているのですか！子育てや仕事が忙しくてそれどころではありません！」などと一蹴されてしまいそうですが・・・『忙中閑あり』と言います。たとえ忙しくても、いや忙しいからこそ、『壺中天（現実生活の中の別天地）』を見つけていただきたいのです。スポーツ、音楽、文学、芸術何でもいいのです。ほんのひとときでも、自分だけの存在感・Only-Oneの世界を味わえる時を過ごしたいものです。